

木材にするか産廃にするか

近年では、山の木や庭の木を伐ってもらいたいと依頼があった場合、その処分まで任されることが多くあります。原木価格が著しく低い今、伐採を任された業者もほとんどが産業廃棄物として廃棄します。このことに問題意識をもっていったのが今井陽樹さん。ひのきやという、市内に事務所を構えて特殊伐採等を請け負う会社の代表です。

私はひのきやで伐採された木を引き受け、市内の製材工場へ持ち込みました。直径五十センチはあるヒマラヤスギ。挽いてみるときれいな木目！これを産業廃棄物として燃やしてしまうなんて勿体ない。乾燥を待ちながら、活用を考えて行きたいと思っています。



▶製材したヒマラヤスギと製材を引き受けてくださった和喜産業さん。木目がつまったきれいな板材が採れた。ヒマラヤスギはその名前に反してマツ科の樹木で、耐久性、耐腐敗性に優れる。

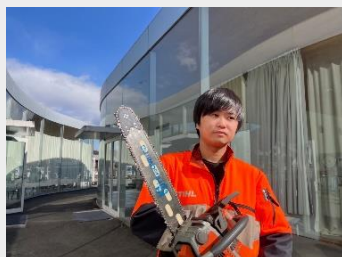
バスケット日本チャンピオンとコラボ…？

また新たな出会いがありました。鬼石の隣、神川町出身のプロバスケットボール選手、飯島さん。3on3のバスケットボールの日本大会を4連覇しているトップ選手です。最近、バスケットという新たなジャンルにも挑戦中で、使用する木材を探していたところでお会いすることができました。アートを施したテーブルなどのコラボ商品を開発中。テーブルの脚も市内の鉄鋼業者さんとコラボ。凄い一品ができそうでワクワクしています。



▶和喜産業会長と飯島選手。木のことをいきいき語る会長と、興味津々のアスリート。笑いの絶えない現場です。

製材したあまりの部分も同時に活用を考えます。皮の部分まで細かく切って蒸留し、オイルや蒸留水を抽出。これらはアロマや石鹸、洗剤などに利用されることがあります。まだ実験段階ですが、葉の部分まで使えるので、製品化できれば、一本の木を余すところなく活用できることになります。



長谷川 隆春

北海道出身の25歳。前職で公務員として林業に携わり、もっと林業に関わりたくて協力隊に着任。自分の山をもって林業家として定住すべく活動中。

SNSでお気軽にご連絡ください！

